



100周年へのメッセージ

高校2期 藤井守一



100周年 御目出度う御座います。

恥ずかしながら思い出を書き残します。

戦中の体験（中学）

校舎はグレーの濃淡でした。

戦闘帽を被り脚にはゲートルを巻いて、先輩と擦れ違うときには敬礼をしなければいけない。ズボンのポケットは強制的に縫付けさせられて、手を入れることは許されなかった。

配属将校2名が常駐し、教練をサボると校庭を何回も走らされたり、砂利を口に捻じ込まれたりする生徒も居た。

空襲警報が鳴ると即一斉に帰宅命令、時には雨樋で警報らしくうなり声を出す輩も居て、大混乱。近隣の生徒は防空隊として組織されて自宅に待機した。

一方、林田校長はカボチャの栽培を奨励され、生徒は栗原牧場から牛糞をパイスケ（竹籠）で運ばされた。手についた臭いは洗ってもなかなか落ちず、あの悪臭は今でも忘れられない。修身の時間には、自由日記を付けさせられ、毎日親孝行や良いことをした事例を書かされて、声を出して読み上げなければ成らなかった。嘘を書いて読み上げる輩もいた。

又、英語は敵国語と見做されて、英語の時間は先生による大本営発表の記事の解説を聞いて一喜一憂した。



Y O K O H A M A



R I G A O K A

戦後の体験（高校）

校舎消失の為、間門小学校に間借りしいて、二部教育もあり、割と自由な時間が多かった。

靴は穴だらけ、運動靴の配給もあったが、下駄か朴齒高下駄を履いていた。

英語力不足の補充の為に通い始めた山手英語会で、バドミントンに巡り会え、同好会を創り、全国で初めての高校での部として誕生した。創立75年に成ります。

詳細は「バド部の生い立ち日記」をご覧ください。

机は買わされた？自分の机を、東福院前の狭い坂道から担ぎ上げた。

新校舎は内外共に薄いピンク一色だった。荒くれた心を静める為だったそうです。

校庭には鉄条網が張られ、進駐軍第108墓地登録小隊のかまぼこ兵舎が幾棟か並んでいた。

その兵舎の中で朝鮮戦争等で戦死した兵士の亡骸に化粧を施して、本国まで届けていた由。

日本の戦犯等もここを經由して、久保山で火葬され、飛行機で太平洋48km先にばら撒かれた由。

残念だったことは、修学旅行は米持参であった為、見送りとなり、中高とも経験なかったことです。

以上、こんな時代の環境の中で、バド部の創立は困難を極めました。

プロフィール

中22期（高2期）
バド08会会長 藤井 守一

